

## <NGO・外務省定期協議会 議題案/質問状記入シート>

1. 議題案名:我々がアフリカと日本の双方ですべきこと、すべきでないこと。
2. 議 題 の 背 景:

6 月当初の第 5 回アフリカ開発会議 (TICADV) 開催もあり日本がアフリカとどう向き合うべきなのか、が改めて問われている。そうした意味で今回、外務省が北海道の NGO とアフリカ支援を巡る意見交換の場を提案したことは高く評価される。ただ外務省側も NGO 側との率直で建設的な批判や提言を今後の対アフリカ政策の改善に真摯に活かす努力が「国民外交」の観点から求められよう。
3. 議題に関わる問題点(議題に上げたい理由):

民主主義国家における対アフリカ政策の形成、決定、実施の一連の過程には、それなりの説明責任、情報開示、市民参加、包括的な政策評価が求められている。だが日本においてそれがどこまで実体化されて来ているだろうか。例、モザンビークと日本とブラジルを結ぶ大規模農業開発プロジェクトやアイヌ民族や海外の少数民族に対する対応を手がかりとした忌憚のない意見交換がアフリカのみならず日本の為にも求められていると言えよう。ちなみに北海道は農業のみならず水産王国である。その観点から言えば西アフリカからのタコ、イカ、マグロの大量輸入による資源枯渇現象も視野に入れる必要があるだろう。
4. 外務省への事前質問(論点を詰めるために事前に確認しておきたい事実関係など):

約半世紀に及ぶ冷戦時代の日本のアフリカ外交をレビューした文献、そして脱冷戦後のアフリカ外交のレビューした文献、これらの資料があると協議の前提としての「大きな絵」を描く作業が容易になると思います。
5. 議題に関わる論点(定期協議会の場で主張したいことや、外務省に確認しておきたいと現段階で考える点):

- > 氏名:森川 純
- > 役職: 酪農学園大学教員、アデレード大学客員研究員
- > 所属団体: 環境システム学部